

# 三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 「長期入院患者様を対象にした

## 看護師による退院判断基準の明確化」

8病棟看護主任 篠原 亘広

当院は1983年頃より退院が困難な長期入院の方に対して社会復帰施設、グループホーム、アパートなど個々に合わせた退院支援を他職種と協力して行ってきました。しかし、そのような退院支援を行っても退院に結びつかなかった方々がいます。こういった長期で入院されている方々の退院を実現するため多職種でチームとなって積極的に退院支援を行うことを目的に2004年9月、地域生活支援室を設置し活動してきました。

2007年6月には自立訓練(生活訓練)事業所レイクビューを設立して26名の退院が実現し退院された方々は現在も地域での生活を継続され楽しんでいます。そこでさらなる在院日数の短縮と地域医療への移行を目指し、今回看護師として退院支援活動対象者を選出した判断基準について考えてみました。

本研究の研究期間は2008年3月1日～9月10日でした。研究方法としてはまずレイクビューへ退院に向けて支援してきた対象者32名の退院支援に関わった看護師25名による座談会を行いました。座談会は3班に分けて60分間、退院支援対象者にあげた直感の中身について話し合い、看護師の同意を得て録音しました。

看護師25名の平均勤務年数は12.5年でした。倫理的配慮として、参加者に研究の趣旨と方法、研究への参加は自由であり拒否する権利・中途拒否の権利、それにより不利益が生じることがないこと、公表の方法、匿名性と守秘の保証などを文章と口頭で説明し、研究者および参加者が同意書にサインをしました。

分析方法は座談会で録音した看護師の直感を分析しカテゴリー化しました。その結果「精神症状」「家族関係」「経済面」「社会性」の4項目に分け、これらの内容をさらに分析すると、以下のようになりました。

- ①精神症状:陽性症状があっても対処方法を知り、治療に応じることができる。幻聴・妄想があっても気にすることなく生活に支障を及ぼさない。
- ②家族関係:家族関係が良好で協力がある。外泊・外出・面会をしている。
- ③経済面:経済面が整っている。金銭管理ができている。

- ④社会性:対人関係が良い。トラブルを起こさない。小遣いを計画的に遣える。外出ができる。周辺の地理が理解できる。

さらに退院支援対象者を選定する看護師の判断基準を以下のようにまとめました。

- ①患者様自身が退院したいと思う強い意志や熱意を持っている
- ②入院時に問題となった精神症状が緩和されている
- ③対人関係が良好である
- ④状態が安定して病院で過ごせている
- ⑤病棟における日常生活に支障がない
- ⑥服薬管理ができている

医師は日本精神科評価尺度研究会による二軸評価、陽性症状・陰性症状評価尺度、簡易精神症状評価尺度などを利用して、精神症状・能力障害を判断し退院の可能性を判断していると考えられます。看護師は患者様の入院から退院まで看護チームで24時間関わり、患者様は何ができて何が苦手なのか、個々の患者様がどのような場面でどのような対応・反応をするのかなど把握し、看護チームで共有しています。それらの観察と経験を退院支援対象者の選定における直感的な判断の基準として活用していると考えられ、看護師の経験値としての情報を密接に他職種と交換・共有することが、患者様の退院を支援していくうえで重要な役割を果たすものと考えています。



病院内で発表している様子

## 「入院管理室が担う業務と役割について」

入院管理室 山崎 倫子

「お仕事は何をされてますか？」と聞かれると、医師や看護師のように一言で答えるには難しく、かといって詳しく答えると複雑になり相手も分からないのでいつも説明に困ります。なぜなら、入院管理室における業務は多岐にわたり様々な病院業務に関わっているため、改めて説明を求められると入院管理室における業務は特殊なものだと感じられます。

簡単にそして“大まかに”説明すると、入院管理室の代表的な業務は、①入退院情報管理、②ベッド管理、③カルテ管理、④面会受付の4つになります。平成8年よりコンピュータによる入退院情報管理が整備され、IDナンバーによる個人管理が可能となり、ベッド運用状況もパソコン画面上で一目瞭然に確認できるようになりました。外来で入院が必要と判断されると空きベッドを確認して病棟に連絡し、入院カルテを作成、入院申込を家族に依頼するなど一連の入院の段取りを行います。また精神科病院は精神保健福祉法を遵守しなければならず、この法律に基づく様々な諸手続がありその管理も業務の1つです。例えば、医療保護入院になった場合、特別に入院届を入院日から10日以内に保健所等に提出しなければならず、遅れないように注意しています。

当院ではカルテは1個人1IDで管理され、開院以来54年間すべてのカルテが保存されており大切な財産の1つでもあります。カルテ庫には何万冊ものカルテがID順に整然と並べられ、必要時にはすぐに取り出すことができます。昨年、病院機能評価を受審する際には、

それまでアイウエオ順に並べられていた莫大な数のカルテをすべてID順に並べ替えました。

最も重要な業務の一つである面会受付は、家族と病棟をつなぐ窓口にもなります。面会時だけでなく、外出・外泊時や、家族が主治医へ面接希望される時の対応などもしています。平成17年に個人情報保護法が施行されて以来、入退院に関する情報の公開がますます厳しくなり、簡単には入院しているかどうかという質問には答えられなくなりました。せっかくお見舞いにいらした方に「お答えできません」と言わなければならない時には相手に不快な閉ざされたイメージを与えないよう細心の注意を払いながら対応しています。

入院管理室は平成17年までは婦長室と呼ばれていました。看護副部長が2名常駐しているほか、事務係が3名おり、隣に看護部長室もあって看護部門の総括になっているからです。看護部の情報発信地であることはもちろんのこと、看護だけでなくその他の部署の人や情報も次から次へと出入りします。表向きにはとてもパワフルな部署ではありますが、業務の内容としては縁の下の力持ち的な役割が多いです。入院管理室のやり方で業務効率の良し悪しに関わってくる中心的な位置づけにあることを忘れずに、今後も患者様に質の高いサービスを提供するため、他部門との連絡、調整、情報を交換し病院全体をマネジメントしていくことも重要で、そのための手助けをしていきたいと思えます。

## 三船病院医師からのメッセージ...

### 「頭痛のお話」

三船病院医師 寺本 鈴美子

いわゆる「頭痛もち」の頭痛の中で、「片頭痛」について取り上げてみます。

片頭痛は頭の片側または両側がズキンズキンと拍動するように痛む頭痛で、吐き気・嘔吐や光が眩しい等の感覚過敏を伴う事もあります。痛くなるタイミングは意外にもストレスから開放された時が多く、これはホッとすると頭の血管が広がるせいと考えられています。頭痛を起す要因は様々で、寝すぎ寝不足、気候の変化、チヨレトやアルコール、生理周期などが関係します。

さて、片頭痛が起きた時にどうしますか。

「ゆったり風呂」に入る」×

入浴は血管を広げるため頭痛が悪化します。

「痛み止めはもうちよっとひどくなつてから」×

早めに飲まないで鎮痛薬は効かなくなります。

「寝てしまおう」○

ひと眠りすると痛みが和らぐ事があります。

治療ですが、鎮痛薬の他にも、血管を収縮する薬や痛みの極期でも効果があるトリプタン製剤などがあります。しかし使い方を間違えると薬物性の頭痛を誘発したり、副作用が出たりする場合もありますので気をつけてください。

また今回紹介した片頭痛の他にもいろいろな種類の頭痛があります。中には命に関わるものもありますので、たかが頭痛と甘くみないようによしましよつ。

# 三愛会 トピックス



## ★三船病院夏祭り

8月9日(土)、毎年恒例の三船病院夏祭りが開催されました。今年もたくさんのお店が並び、患者様やその家族、地域住民の方など多くの方が参加されました。ゲストの方々も華々しく見ごたえのある舞台ばかりで、最後に上げられた大輪の花火も夏の夜空を美しく彩りました。



## ★第20回相談室セミナー

11月6日(木)、精神障害者退院促進地域精神保健福祉活動PR事業のキャラバン隊を講師にお迎えし、地域への退院について講義を受けました。実際に香川県退院促進支援事業を利用して退院された当事者の方のお話も伺って、参加者の方々は興味深そうに聞かれていました。



## 三船病院 委員会活動紹介

### 「情報システム委員会」

委員長 三船病院副院長 川田 浩

情報システム委員会は平成18年8月に発足、当委員会の主な役割・目的は、院内の情報システムの推進、並びに情報システムの管理・セキュリティ対策を図ることである。当院の現在の情報システムとしては、オーダリングシステム、入院患者情報データベース、LANによる院内情報閲覧システムなどがある。当院はチーム医療を推進しているが、そのためには多職種による患者様の情報共有が大変重要である。また職員の業務の効率化として患者様の情報システムは欠かせないものである。例えばデジタルデータであれば1回の入力で繰り返しの記事を避けることができるし、LAN の構築により書類やUSBメモリーを持ち運ぶ時間を節約できる(当院では院内の移動はかなり距離がある)など、情報の移動もスピーディーである。最近流行のUSBメモリーは

小さくて便利であるが、小さいがゆえに紛失の危険性、接続したPCにウイルスを感染させる危険性があるなど多くの問題点がある。

大変便利な情報システムであるが、その一番の問題点はデジタルデータが暴露ウイルスに感染するなど、大量の情報が瞬時に大勢に閲覧されてしまうことである。その為、情報セキュリティは欠かせないし、各職員に個人情報保護の意識を高めるように個人情報保護委員会と一緒に意識づけしている。

最近、地球の温暖化が話題になっているが、当院でも企業責任としてエコロジーを考えている。その一環として当委員会としては、各委員会などで液晶プロジェクターによる会議を開催し、できるだけペーパーレスに近づけることを推進している。

#### 《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第1水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



## 【介護老人保健施設 福寿荘】

准看護師 西原 キヨミ

2000年4月介護保険法(身体拘束禁止規定)の施行により「身体拘束ゼロ作戦」が始まり、福寿荘でも身体拘束をしない工夫が話し合われました。現在は奇数月の最終月曜日に、事故防止委員会ならびに身体拘束廃止委員会を開き、事例を通して事故についての原因、防ぐことができた理由を話し合っています。

また毎週火曜日のミーティングの時には、事例をもとに事故原因また「ひやり・はっと」の場合は防ぐことができた理由を話し合い事故防止に努めています。事故発生場所としては居室、ホール、浴室が多いようです。事故原因として、居室ではベッドに上がろうとしての転倒や降りようとしての転倒、夜間尿意による覚醒時のふらつき転倒、ホールではソファからの移乗時に車椅子や他者の足につまずくことでの転倒、浴室では衣類の着脱時に足を滑らせての転倒等がみられます。

これらは訪室回数を増やして様子を伺い、通路となる所には物を置かないよう注意し、濡れて滑るところはないか、床が剥がれている所はないか常に点検を行うことで事故防止に努めています。また、時間帯としては夜間一度覚醒した午前0時から午前9時と午後1時から午後6時に多くみられます。そこで、ゆとりのある介護看護や利用者様との交わりを取り入れ、明るく楽しく過ごしていただける場としてユニットケアを発足し、作品作りやゲームに楽しんでいただくことで事故防止に繋がっています。楽しまれている間は徘徊もなく笑顔が見られ落ち着いて過ごされています。

利用者様からも「何がしたいか」など要望を聞き、いろいろと私たちも工夫をこらして利用者様が事故のない楽しい毎日を送っていただければ幸いと思っています。

## 【三愛会コミュニティケアセンター】

地域活動支援センターはなぞの 木村 潤

平成18年10月に精神保健福祉法による施設から障害者自立支援法による施設へと移行したことで、現在は主に地域の一般的な相談に対応する「相談支援事業所はなぞの」と従来どおり活動を中心に行う「地域活動支援センターはなぞの」の2つの事業所に分かれています。今回は地域活動支援センターはなぞのについて紹介させていただきます。

地域活動支援センターはなぞのでは、基本的な部分の活動内容は変わりませんが、新たに内職活動を始めました。昨年度までは、毎週火・水・木曜日の週3日間だけ実施していましたが、今年の5月からは毎週月曜日から金曜日までの週5日間に拡大して行っています。一般就労を目指して内職活動や就労ミーティングに参加される方が増えてきたように感じます。

その他の活動では、最近メンバーさん自身が発起人となり「テニス同好会」が発足、月に数回希望者が集まりコート借りて行っています。またみんなでカラオケに行く「歌う会」も発足しました。従来から実施していた「ちよっとリッチなランチの会」もメンバーさんを中心に計画されるようになり、多くの方が参加して美味しいちよっとリッチなランチを食べに出かけています。そして今年度は「メンバー学習塾」として、水中毒、介護保険制度、AEDの使い方と心肺蘇生などをテーマに行い、今後は薬、メイクアップのノウハウ、健康体操などを考えています。レクリエーションとしては春にお花見、秋は小豆島旅行に出かけました。

これからもメンバーさんのニーズを受け取りながら積極的に活動していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

### 《三船病院からのお知らせ》

#### 【行事予定】

○三船病院クリスマス会

日時: 12月24日(水) 13:00~

場所: 三船病院会館

演目: ゲスト演奏

和風バンド “まほろば”



### 《編集後記》

風に散る木の葉に深まる秋を感じますが、みなさまいかがお過ごしですか？今回は三船病院看護師の立場からレイクビューへ向けての退院支援活動について紹介しました。その後、昨年末から半年間にわたって行った退院支援活動では対象者75名中 30名の退院が実現し病床も削減しました。現在も引き続き51名を対象に支援していますので、ご本人の望む生活が実現するよう他職種と連携して取り組んでいきたいと思ひます。 (三船病院相談室PSW)